第 5 回 定 例 会

議会改革検討会会議記録

令和6年3月15日

会 議 記 録

会 議 区 分	議会改革検討会	
開 催 年 月 日	令和6年3月15日	開 議 午前11時00分 散 会 午前11時30分
場 所	苫小牧市議会 議会大会議室	
出 席 者	代 表 者	金澤会長、神山団長、 小山代表、牧田代表、 小野寺団長、触沢議員
	代理出席者	桜井議員
	正・副議長	藤田議長、岩田副議長
欠 席 者	谷川代表	
説 明 員	――	
事 務 局 職 員	宮沢事務局長、小西事務局次長、岸田副主幹、 近藤主査、樺島書記	
付 議 事 件 及 び 議 事 の 経 過 概 要	別紙のとおり	

●議長（藤田広美） ただいまから、議会改革検討会を開会いたします。

●議長（藤田広美） 谷川代表が所用で欠席のため、桜井議員が出席されておりますので、報告いたします。

●議長（藤田広美） 本日の案件は、会議案のとおりであります。

資料として、資料1から資料3を配信しております。

資料の掲載場所は、サイドボックスの議会改革検討会、本日の日付でございます。

最初に、資料1を御覧ください。

議会改革検討会決定・確認事項については、検討項目ごとに、これまで決定・確認されたことをまとめたものでございます。

前回12月15日開催の議会改革検討会での決定・確認事項としては、1の議員定数・報酬については、まず、定数に関して、全員協議会において定数の基準をつくるべきという意見が複数の議員から出されたため、定数の基準に対する考え方も含めて協議をすることとしておりました。

また、報酬につきましては、見直す方向で全会派の意見が一致したため、1月12日に、正副議長にて、苫小牧市特別職議員報酬等審議会への諮問について、市側に要望書を提出いたしました。

なお、審議会からは、2月20日付で市長に答申書が提出され、議員報酬の増額が適当とした上で、附帯意見として、議員定数の適正化や財政負担の削減、議員活動の在り方の改善など、より一層の議会改革推進を求めることが申し添えられました。

2の議会のICT化の推進については、実務者会議からの報告を受け、委員会条例、会議規則及び関係規定の改正案等について確認し、12月定例会に議案として上程し、原案どおり可決いたしました。

また、ICT化の推進に係る新たな検討事項として、議員提出資料のデジタル化、本会議におけるオンラインでの一般質問の実施について、オンラインでの質問通告についてを追加することに決定し、実務者会議において協議することといたしました。

3の市民との意見交換会の活性化については、1月26日に文教経済委員会において、苫小牧市PTA連合会と、子育てや学校の環境と教育行政の側面から、よりよい教育環境の実現のために、子どもたちの居場所づくりについてをテーマに開催いたしましたので、御報告いたします。

以上が、これまでの議会改革検討会決定・確認事項でございます。

今回の検討会におきましては、議員定数について及び後ほど実務者会議での協議経過を副議長より説明していただいた後、議会のICT化の推進について協議を進めたいと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●議長(藤田広美) それでは、そのように進めさせていただきたいと思います。では、協議に入らせていただきます。

最初に、議員定数についてでございます。

協議に入る前に、前回12月15日の議会改革検討会において、議員定数の基準をつくることに関する議論の中で、小山代表から、帯広市が6,000人に1人の基準を設けているとのことについて調査依頼がございましたので、調査結果について御報告いたします。

帯広市の議員定数につきましては、人口6,000人に対し議員1人を基準として定数を決定しており、この基準は、平成27年4月の改選時における定数議論の際に設けたものであります。数値的な裏づけや根拠があるわけではございませんが、類似自治体の定数や面積、財政力指数等を参考に検討した経過があるとのことでございます。

しかしながら、現在、帯広市の議員定数は29人、人口が16万2,000人で、おおむね5,600人に1人の議員定数となっており、既にこの基準からずれてしまっているため、帯広市議会においても、基準の考え方も含めて、今後の定数の在り方について令和5年11月より協議を始めたこと帯広市議会事務局から伺っております。

ただいまの帯広市の事例も参考にして、基準をつくるかどうか、また、つくるべきという御意見の場合、その考え方も含めて各会派の御意見を伺いたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長(金澤俊) 我々としては、これまでも述べておりますが、基準づくりにつきましては、その必要性自体がまだ分かっておりません。なので、ちょっと今この段階では、つくるかどうかというところ、回答はできないのかなというふうに思っております。もうちょっと検討が必要かと思っております。

それで、先ほど帯広市さんのお話がありましたが、これは確認なのですけれども、6,000人に1人という基準、平成27年4月から設けたものが既に合わなくなってきた、今、見直しをしているというところですが、これは基準に対して人数を合わせようという協議をしているのではなくて、基準そのものの見直しをしているということではよろしいかどうか、ちょっと事務局に教えてもらいたいと思います。

●議長（藤田広美） ただいま金澤会長が言われたとおりであります。

●新緑会長（金澤俊） そうですか。

であれば、やはりこの基準づくりというのは、今いる議員のメンバーがやるということで、仮に何かの基準に合わせてつくって、根拠に基づいて基準をつくりましても、またメンバーが変わっていけば、我々で触れる、そのルールであれば、また変わる可能性というのが十分あるということなので、改めてそこの必要性についてはちょっと疑問がまだあるなと思っております。

それから、ちょっと事前に議長の了承を得て、資料を配付させてもらいたいのですが、お願いしてもよろしいでしょうか。

●議長（藤田広美） 今、資料の配付をしますので、よろしく申し上げます。

●新緑会長（金澤俊） これは、以前の代表者会議に実は出す準備も兼ねてやっていたので、代表者会議用参考資料と書いておりますが、今日ちょっとこの場で出させていただきました。

これを作成した目的というのは、この基準を設けるというのは、例えばということと言われておりますけれども、やはり人口が減少した場合に何人議員を減らすかというような、あるいは増えた場合も何人増やすかと、基準を設けるということはそういうことかと思えます。

なぜその基準が人口に依拠しなければいけないのかということと考えますと、やはり人口が減ると財政的に税収が減ると、だから議員の報酬を払う財源が少なくなるので、例えば同じようなパーセンテージの分を議員の定数を下げましょと、そういうようなことになっていくものかなと思うのです。そういったしっかりとした数字、エビデンスに基づいて基準をつくるのであれば、つくらなければいけないと私は思っております。私の会派としても思っております。

それで、この資料なのですが、御覧いただきますと、平成26年から令和4年までの市税収入と職員費というのを上げさせていただいております。これはいろいろな考え方があろうと思うのですが、苫小牧市の人口のピークは平成25年で、そこから今日に至るまでずっと減少してきています。

ただ、それによって市税収入がどうなっているかというと、これは決算書から全部私は取ったのですが、大体270億円から280億円ですとずっと推移してきております。増減はそんなに大きくなくて、大体同じぐらいの幅で来ています。

では、人口は減っても職員費、いわゆるその職員を減らすという行革等々を市側がしてきているかというと、職員費全般、その正職員か非正規かというのはあると思いますが、構成はあると思えますけれども、職員費全体の金額というのはほぼ変わらず

に100億円規模で来ています。

ですから、人口は平成25年から今日に至るまで大体5%ぐらい減っておりますけれども、市税収入も落ちておりませんし、行革という中で、市のほうも人件費ということだけ考えますと落としていない。

そういう中で、議会が人口が減ったからといって何らかの基準に基づいて市民の声を多く拾う、そういう役割を担う人が定数を下げるということをすべきかどうかというのは、やはりこういう数字にも基づいて検討していかなければいけないのではないのかなと思うものですから、この点について御意見があれば言っていただきたいのですが、私からは取りあえず今日、そういった、今後、基準を考える必要性も含めて考える上で、ちょっと参考にさせていただけたらと思ってお話しさせていただきました。

以上です。

●議長（藤田広美） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（神山哲太郎） 何と答えていいか、ちょっと何とも言えないのですけれども、基準づくりというのは、どこを基準にするかというのが一番難しいところだなというふうに思います。人口もそうでありますし、この今、金澤会長が示された市税収入も、それは一つの目安というふうになるし、その根拠、裏づけにもなるのかなというふうには思います。

ただ、これでこの定数を、市民の意見をより多く受けるためには、議員の質の向上であるとか、それこそ定数のアップであるとか、そういうことも当然これはあるとは思いますが、その中でやはり重要視されなければいけないというのは、議会の活性化がまず最初に来るのではないかな。

なので、我々としては、以前より言っておりますけれども、定数の削減というのは、その削減ありきの議論をするということではなくて、やはり議会活性化の中での削減とか、そういう議論をしていくべきだというふうに思っているところであります。

我々の会派としては、基本的なところは、定数の削減というのは、これまでどおり考えていないというところを基本にしております。

この今、出された金澤会長の考え方も参考にしながら、今後、この定数の議論についてはもっと深く、いろいろな角度からさらに見ていく必要があるのではないかなというふうに思っています。

今のところはそんなところですよ。以上です。

●議長（藤田広美） 民主クラブさん。

●民主クラブ代表（小山征三） 議員の定数というのは、私どもが基準をつくるべきだと主張した背景には、古くは地方自治法の中で基準が定められていたということ

で、その基準というのは、人口に対する基準があったと。非常にかげ離れた数字なので、それを参考にして、各市町村議会が決めていたというような状況なのですけれども、毎回、これまでの選挙後に必ずこの議会改革の一番最初にこの定数という議論が出ているので、やはりこの基準というものをある程度つくった上で議論するべきではないかなと。それもやはり市民にとって分かりやすいのは、人口の増減により議員の定数をある程度比例していくべきではないかという考え方があります。

それで、苫小牧は、その基準をつくった上で、それをベースに議論すると。帯広市さんでは基準をつくったけれども、これまで議論されていなかったというのは、やはりそこは議会としてはどうなのかなという疑問もあるので、基準をつくれれば、それをベースにして議論する、これが普通の考え方なのかなと。

議論してこなかったことを肯定するつもりはないです。

それで、我が会派では、この議員定数については、まず偶数とすべきだという考え方も持っています。なぜなら、議案の採決のときに、奇数であれば議長を除くと可否同数になるので、あくまでも偶数にして、議長を除いて、可否同数にならないようにするというのを念頭に置くべきだと。

そして基準も、前にちょっとお話したのではすけれども、10万人に対して20名、そして、偶数ですから、2万人ごとに2名というような基準をつくれれば、今の16万人台であれば26人というような基準を持って、それを踏まえて検討するべきだと。

ただ、うちの会派では、これについても、今の28人から26人にするということでは、会派内全員が一致しているわけではありません。今後も、冒頭、議長がお話したとおり、報酬審議会から出された附帯意見に基づいて、もう少しこの定数の在り方を議論して、統一を図りたいなと考えているところがございますので、この先ほどの附帯意見、改めて、後ほどで結構ですけれども、もう一度お話ししていただければと考えております。

●議長（藤田広美） 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（牧田俊之） 定数のほうは、先ほどからいろいろ、金澤代表のほうからも市税ベースでというお話もありましたけれども、いろいろ調べてる方の資料なんかを見ますと、全国的に見ると、やはり人口と相関があるということは取られていて、例えば財政規模とかそういったところではあまり相関がなくて、やはり人口によるというところかなというのが大方の流れにきているかなと思いますので、人口に沿ってという、帯広市さんの考え方もあるだろうし、先ほど小山代表も紹介されていましたが、人口10万人で20人、私も全く同感の考え方でありまして、人口と相関があるというのとどんな形になるかというのと、2次曲線を横にしたような、

ちょっと、正比例ではないのですよね。人口が増えれば増えるほど住民規模当たりの人数というのは分母が大きくなっていくような、そういった考え方になりますけれども、それを厳格に運用するとなると、やはりどんどん議会の人が変わってきますので、先ほどから金澤会長がおっしゃっていたように、なかなか運用が難しいだろうというふうに思いますので、僕は目安として、そういった数字は、置くことはいいのではないかなというふうに思っています。

報酬審議会のほうで附帯意見が出された件というのも、私の肌感覚で申させていただきますと、やはり市民の方はそういった感覚を持たれているなというふうには、実際に言われたこともありますし、市民感覚ではそういうことなのだろうというふうな理解はしています。

以上です。

●議長（藤田広美） 日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 基準を設けるべきということに関しては、基準をつくるための基準をどこに置くか、そういうところでは私たちもなかなか悩ましいなと思っております。

一番、人口に対してというのが見えやすい、市民に分かりやすいのかもしれませんが、一方で、そのときそのときの時代背景とか社会情勢であるとか、いろいろなことがあるので、幾ら人口が減っていったとしても、議員の役割の重さがその時々であると思いますので、そうしたらやはりこのくらいの人数は必要だよなということで、その時々で私は考えていってもいいと思っておりますので、基準を設けるといふことよりも、ほかの町の状況も参考にしながら、そして今、金澤会長が出してくれた資料もありましたから、こういうものも見ながら、そして、あとは社会情勢、背景なんかも考えながら、あるべき姿というものを考えるのがいいのかなと思っておりますので、基準づくりについては少し消極的な考えを持っています。

附帯意見なのですけれども、附帯意見は、定数を削減しろとは言っておらず、適正化を図りなさいということと、議会費全体の削減も検討したらいいのではないかということですので、定数削減ありきで議会費の削減を検討しなさいということではないと私は解釈していますので、どう適正化なのかということは、市民に分かるような形で議論することによって理解は深まるのかなと思っておりますし、さらなる議会改革ということは、定数削減のみではなくて、ほかのところでもいろいろ議論していける内容がまだまだあると思いますので、そういう意味で、これから議会改革ということを進めていけたらと思います。

以上です。

●議長（藤田広美） 会派市民さん。

●会派市民代表代理（桜井忠） 今までの議論にずっと出ているわけではありませんで大変申し訳ございませんが、もともとこのシステムチックに、人口このぐらいなら何人とか出る制度は、前に矢嶋議員が提案をされたのです。それで、私もそれを聞いたときには、この議論というのは、もう選挙が終わるとずっと定数の話題を2年間ぐらいやっているということが続いている中で、そういうものに当てはめて人数は自動的に決まるのだということは非常に会議も少なくなるというか、そういう意味では議会改革に僕はなるのではないかなという意味で、前はそれは採用されなかったけれども、次回に向けてもっとこれは研究する必要があるねということで提案したことがその当時がありました。

そういう中でありますが、ただ、やはりどこに置くかという、皆さんの共通した認識がないといけないというふうに思いますが、やはり私は人口なのだろうと。それは、例えば人口は減ってきていますけれども、世帯数はどんどん増えているとか、どこに焦点を置くかによっていろいろ答えは違うと思うのですけれども、やはりそういったときに、最終的にはやはり人口ということになるし、それが減ってきてから、もう1万人近く人口が減ってきていますから、そういうことからいうと、やはりもう削減もやむを得ないのではないかというふうには思っております。

以上でございます。

●議長（藤田広美） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 私は増やすべきだという立場なのですが、まず、基準をつくるということに関しては、非常に難しいなと考えています。つくるのであれば、時間的につくってやってみるですとか、そういう対応がいいのかなという意見は持っております。

金澤会長から資料が出てきて、これは人口が減っていて、本当に収入が減っていれば、やはり議員を減らすのも致し方ないのかなと思うところはあるのですが、私は増の立場なので、この資料は非常に心強いなと思いました。

やはり最大で市議36名ですか、過去。そこから平成25年がピークになっていて、そこから1万人ぐらい今は減ってきたよということで、税収が増えていると。

幅広い意見の聴取ということを考えれば、私は、2名増の30人にすべきではないかという意見です。

以上です。

●議長（藤田広美） ありがとうございます。

まず、先ほど小山代表から、附帯意見についてですけれども、再度改めて申し上げ

ます。附帯意見は、本答申に当たり、今後の人口や市税収入の減少などを見据え、市議会議員の定数のさらなる適正化による財政負担の削減や議員活動の在り方など、改善すべき点について、より一層の議会改革推進を求める複数の意見があったことを申し添えると、そういった内容でございました。

先ほど各会派から御意見いただきましたけれども、この基準に関しては非常に多くの意見がありまして、なかなか分からないとかですね、民主クラブさんは、この基準を設けるべきだという意見があったり、偶数とする意見があったり、またさらに、改革フォーラムさんからは、基準をつくるべきであると、それで相関的なものをつくって検討すべきといった話もございました。また、新緑さんからは、市税収入を出して、これを基にまた改めて議論すべきといった意見もございました。またさらに、公明党さんからは、やはり議会のしっかり推進をすべき、議会の活性化が必要であると、そういったことがあったり、また、共産党さんからは、議員の役割の重みには変わらないと、そういった意見もございまして、しっかり基準を設けることに対してまだ結論が出ないといった様々な意見がありまして、この基準につきましては、なかなか決まらないと思うのですけれども、特に定数につきましては本年の12月までに結論を出すことで決定していますけれども、この基準については、これまで結論づけるというのはなかなか難しいのかなと思っております。まずは定数の議論を精力的に進めつつ、基準についてはさらに継続的に協議をしていきたいと、そう考えているのですが、そういった形でよろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（藤田広美） では、そういう形でまずは定数の議論を今後また進めてまいります。6月の検討会において定数についての協議を引き続き行ってまいります。基準に対しての考え方や案などもございましたら各会派で検討の上、御提案していただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

●議長（藤田広美） 次に、議会のICT化の推進についてでございます。

この件について、新たに追加した検討事項等を実務者会議で協議していただきましたので、協議結果を副議長から説明していただきます。

副議長。

●副議長（岩田薫） それでは、私のほうから、実務者会議で協議した現時点での結果について御説明いたします。

資料2を御覧ください。

まず初めに、12月15日の議会改革検討会において、新緑の金澤会長から御提案

のあった議員提出資料のデジタル化についてですが、議会で所有しているモニターを1台増やし2台とすることで、議場及び傍聴席双方に議員提出資料をデジタル放映することができるほか、特別委員会もしくは常任委員会が2つ同時にオンラインで実施することも想定されるため、実務者会議として新たに1台導入してはいかがかという協議結果となりました。議員提出資料のデジタル化については、この後の議会運営委員会で報告の後、本年6月定例会から運用可能となります。

次に、2、公明党議員団の神山団長から御提案のあった質問通告のオンライン化についてですが、運用上のルールを、資料3のとおり変更することで実施可能であるという協議結果となり、こちらについても議会運営委員会です承を得られた上で、本年6月定例会より運用可能となっております。

次に、3、本会議のオンラインでの一般質問の実施についてですが、可能とする方向で進めることを決定し、今後、課題等の整理を行いつつ、座長案をお示しして、会議規則等の整備を行うことといたしました。

次に、4、市長部局のオンラインでの委員会参加については、協議を継続してまいりたいというふうに思っております。

最後に、前回の検討会において、桜井議員より、委員会等の会議への出席について、代理とオンラインのどちらを優先させるのかという旨の御質問がございました。

このことについては、対面を基本とし、代理出席が優先となりますが、本人がオンライン出席を求める場合や特別な事情がある場合は、それを妨げるものではないことを確認しております。

実務者会議で協議した事項の現時点の報告は、以上でございます。

●議長（藤田広美） この件に関して、何か御意見ございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

●議長（藤田広美） それでは、そのように進めさせていただきます。

なお、議員提出資料のデジタル化及び質問通告のオンライン化については、本年6月の定例会から運用を開始することとし、これらの件につきましては、私から議会運営委員会委員長に申し送りをさせていただきたいと思っております。

●議長（藤田広美） その他、皆様からございますか。

神山団長。

●公明党議員団団長（神山哲太郎） ちょっと御提案があります。

災害が起きたときに、市議会では、迅速な対応、それから議会の機能維持が必要だというふうになっています。現在、市議会では災害対応マニュアルというのがあると

思いますけれども、市議会においても事業継続ができるように、議会BCPを策定して、いざというときに議会としてのBCP、災害に備えていくべきだというふうに思います。議会BCPの策定を議会改革検討会の検討項目にさせていただきたいというふうに思いますので、よろしくお取り計らいをお願いいたします。

●議長（藤田広美）　ただいま公明党議員団神山団長より、市議会としてBCPを策定してはいかがかという御提案がございました。

この件につきましては、議会改革検討会の検討事項に新たに追加してはいかがかと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（藤田広美）　では、このBCPに関しては、今後、追加してまいりますので、よろしく願います。

神山団長。

●公明党議員団団長（神山哲太郎）　ありがとうございます。

次回までに、議会のBCP、公明党案として提案をさせていただきたいと思いますので、よろしく願います。

以上です。

●議長（藤田広美）　小野寺団長。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵）　ほかの市議会ですらそういうのをつくっているのがあったら、それも参考に見たいなと思うので、もしよかったら、お願いしたいと思います。

●議長（藤田広美）　ただいま神山団長より公明党議員団として案を提出したい旨の御提案がございました。さらに、小野寺団長から、他市のそういった案もあれば一緒に提出いただきたいということもありましたので、その案を基に、今後、協議を進めていきたいと思いますので、それでよろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（藤田広美）　それでは、次回、公明党議員団より案を提出いただき、さらに、他市の案も一緒に併せて提出をします。その後、協議を開始し、BCP策定に向けて検討を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願います。

他にございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

●議長（藤田広美）　以上で、議会改革検討会を終了いたします。
御苦勞さまでした。

散 会 午前 11 時 30 分

以 上。